

二欠

風能

柳多留

三編

1147  
20



門へ  
流 1147  
卷 20



昔と三十年も昔より  
上名護屋とらばさばおれづう  
名ふしおひあふ糸あは連中  
いづつておらぬいハハ  
くくとわあふあふあ  
あててあゆ柳橋もや二十と  
あふはあ乃さうえ人のめ  
知るべしそはは  
こらあれどあの上はは

一欠

いんやうもさくたの品あまうが  
いねまごなえ乃志ひきりせむた  
ら行くはうの皮三寸舌をれや  
と江戸中のおまのりさうもらん台  
点たのもで十三日らうでさるんわ  
らぬ物とつひきりて勅使にさる  
らもみまはる

天明乙巳冬

雨譚



同ことの未だじうたれら  
年礼でかきやしじらん有らるる  
先継代くうき法もたう海  
と修はくはねととがく大折若  
き着くくもくあめでわめと  
うんごうとかおいてとるすん物  
後世のたうあまのりさう  
さやうから虎の門とさうらと  
とやうさうの物でさうニ人





神ぞいで世房はくしおをさるし  
きくしおはくしおはくしおはくしお  
とらぶらぬのんせは舞はくしおはくしお  
てりあきいせくしおはくしおはくしお  
し月あつと世彼ののちをくしおはくしお  
唐うぶのわびのくしおはくしおはくしお  
はくしおはくしおはくしおはくしおはくしお  
文とくしおはくしおはくしおはくしおはくしお  
らくしおはくしおはくしおはくしおはくしお

世房のくしお

今とらぶらぬのんせは舞はくしおはくしお  
はくしおはくしおはくしおはくしおはくしお  
くしおはくしおはくしおはくしおはくしお  
おとれ入ゆくしおはくしおはくしおはくしお  
くしおはくしおはくしおはくしおはくしお  
やきくしおはくしおはくしおはくしおはくしお  
くしおはくしおはくしおはくしおはくしお  
世房のくしおはくしおはくしおはくしおはくしお  
くしおはくしおはくしおはくしおはくしお  
くしおはくしおはくしおはくしおはくしお

三十一  
12  
13  
14  
15  
16  
17  
18  
19  
20  
21  
22  
23  
24  
25  
26  
27  
28  
29  
30  
31











井戸だんじりしるしひかひかたつたひかたつた  
 とうきりかひかひかひかひかひかひかひかひか  
 ちかひかひかひかひかひかひかひかひかひか  
 ちかひかひかひかひかひかひかひかひかひか  
 とかひかひかひかひかひかひかひかひかひか  
 あかひかひかひかひかひかひかひかひかひか  
 白たの地へあつと下系たひかひかひかひか  
 ちかひかひかひかひかひかひかひかひかひか  
 たのちかひかひかひかひかひかひかひかひか

かひかひかひかひかひかひかひかひかひか  
 ちかひかひかひかひかひかひかひかひかひか  
 とかひかひかひかひかひかひかひかひかひか  
 あかひかひかひかひかひかひかひかひかひか  
 白たの地へあつと下系たひかひかひかひか  
 ちかひかひかひかひかひかひかひかひかひか  
 たのちかひかひかひかひかひかひかひかひか















たけくらしとけりてい西に母おごり  
佛とてあつてのまじりてつう後を  
さつとくえまじりてあつて  
法をたつてのまじりてあつて  
はつとくえまじりてあつて  
ち男のまじりてあつてあつて  
物のまじりてあつてあつて  
乃後まじりてあつてあつて  
乃網虫が汁のまじりてあつて

手記

くらしとけりてい西に母おごり  
くえまじりてあつてあつて  
あつてあつてあつてあつて  
百人一首あつてあつてあつて  
あつてあつてあつてあつて  
あつてあつてあつてあつて  
あつてあつてあつてあつて  
あつてあつてあつてあつて  
あつてあつてあつてあつて









富の場へこの神とおもひつらうれば  
かへくちのちよむをきつとらうらうら  
流るるらばいもきよものる町を  
と音へしゆとやうく 珍味ゆ  
はらうちのぢうえんぢんぶのわら  
きつらうらうらうらうらうら  
とくきつ門内ぐわつものいれ  
し百りあゆむとハ流るこれ  
京本大うがゆりて本ど

とくまのぢうらうらうらうら  
わらわらのちゆゆゆゆゆ  
きつゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
通しゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
とらうらうらうらうらうら  
はとせうてせうて死ねおーと  
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
下ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
森ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ







ふつてまがしりかふしつらぐらう  
印江の岡「敵」もよてらゆて居ら  
堂とくもも成たふしきさふかて居ら  
たしつらりつらりふんと長田す  
せりゆ小段であゆんつらおもとせ  
ふしつらりてす目くやくふに  
皆落葉しつて丸うらと目之つ  
あしつらりしけま小坂ふつら  
つららちやるとまひれ居のゆつとむさ

ふん宅のうきりかふとふてうらり  
うらやむと口つまのゆしてゆいて居ら  
はあつむすふて海の神 退治つら  
しつらりつらりつらと居てつらつら  
つらつらつらつらつらつらつらつら  
日ちつらつらつらつらつらつらつら  
先づのつらつらつらつらつらつらつら  
ちとむくとつらつらつらつらつらつら  
どほつらつらつらつらつらつらつら

ちいさなを舞い九十おらんり  
 られおろしと園々のびとらり  
 白く売あげてやうとと捨むら  
 ぶ目尻とトクてもどろやうと  
 右ととととととととととと  
 くらとととととととととと  
 べらくとととととととととと  
 かんがくととととととととと  
 くらくとととととととととと

くらくとととととととととと  
 程のくくくくくくくくくく  
 初おそれくはばくくくくく  
 車坂下とつなりのくらと  
 丸魚のちもあつめらくらと  
 くらとくらとくらとくらとくらと  
 てくらとくらとくらとくらとくらと  
 くらとくらとくらとくらとくらと  
 くらとくらとくらとくらとくらと  
 くらとくらとくらとくらとくらと

彩衣の巻づくろくろくづら  
 一在  
 まらをか〜〜とて〜トて  
 小しき形〜〜とて  
 折本の紙くさ〜とて  
 夕らり〜〜とて  
 ぬが〜〜とて  
 秋葉わ〜〜とて  
 抄の死状〜〜とて

女衣関の巻〜〜とて  
 お傘の〜〜とて  
 小づ〜〜とて  
 ぎ〜〜とて  
 人が傘〜〜とて



己春去例角カ合

佐之、木、梅、子、但

八日の木ととも海ら〜

玉、連、和、苗

御森は〜六日〜

伊、波、子、石

おのれ〜

榎、木、豊、好

〜

康、子、云、松

〜

玉、垣、心、面

〜

康、子、鹿、保

〜

榎、木、カ、タ、儿

〜

柳、子、家、又

〜

玉、垣、心、面

〜

柳、子、家、又

〜

松、梅、云、松

〜

榎、木、カ、タ、儿

〜

康、子、云、松

〜

榎、木、云、松

〜

柳、子、玉、簾

〜

榎、木、カ、タ、儿

〜

井、指、白、子

一帯中一帯のつらつらとあやうく  
其申さば林からあやうく  
かき入る人からと出た  
たは白うしあやうく  
柳からとあやうく  
物もあやうく  
お門とあやうく  
あやうく物もあやうく  
行まじい梅はあやうく

花梅、軍之、  
桜木、運断、  
その他、軍井、  
公庭、寸典、  
桜木、春松、  
柳、徳兵、  
桜木、洗強、  
御殿、  
桜木、本御

い研りもあやうく  
あやうくあやうく  
餅とあやうく  
あやうくあやうく  
あやうくあやうく  
あやうくあやうく  
あやうくあやうく  
あやうくあやうく

花梅、軍之、  
桜木、運断、  
その他、軍井、  
公庭、寸典、  
桜木、春松、  
柳、徳兵、  
桜木、洗強、  
御殿、  
桜木、本御



汗止の園一とま年、  
 梅系、本坊  
 井坊、高柳  
 八重垣、寸突  
 梅系、五松  
 成者、赤松  
 伊波、文庫  
 梅系、カク  
 八重垣、物受  
 梅系、カク  
 梅系、カク

梅系、本坊  
 井坊、高柳  
 八重垣、寸突  
 梅系、五松  
 成者、赤松  
 伊波、文庫  
 梅系、カク  
 八重垣、物受  
 梅系、カク

今海一りあつた百廻り入つた 河原、土車  
このころいふ事いふ事 松本、吉野  
あつたいふ人いふ人 松本、吉野  
松本の事いふ事いふ事 松本、吉野  
あつたのころいふ事いふ事 松本、吉野  
いふ事いふ事いふ事いふ事 松本、吉野  
いふ事いふ事いふ事いふ事 松本、吉野  
いふ事いふ事いふ事いふ事 松本、吉野  
いふ事いふ事いふ事いふ事 松本、吉野  
いふ事いふ事いふ事いふ事 松本、吉野

あつた店いふ事いふ事 井端、松本  
いふ事いふ事いふ事いふ事 松本、吉野  
いふ事いふ事いふ事いふ事 松本、吉野  
いふ事いふ事いふ事いふ事 松本、吉野  
いふ事いふ事いふ事いふ事 松本、吉野  
いふ事いふ事いふ事いふ事 松本、吉野  
いふ事いふ事いふ事いふ事 松本、吉野  
いふ事いふ事いふ事いふ事 松本、吉野  
いふ事いふ事いふ事いふ事 松本、吉野

川に水いふ事いふ事 松本、吉野  
松本、吉野

續南口合

あはれはあはれと名取の東の日月に  
まらしめ火折早の石より  
古くもきり葉ははらけり  
らとらん半にてかゝりまらとほろ  
下中てうととあづらふとく  
折後ふぬらまのあはれとく  
おとらとらんかゝりまらとほろ  
まららあはれとく  
花のあはれとく  
伍世

も年おのあはれとく  
くうえり―物月まらとく  
あはれとらんかゝりまらとほろ  
折後ふぬらまのあはれとく  
おとらとらんかゝりまらとほろ  
まららあはれとく  
花のあはれとく  
伍世

雨

女

赤

西

石

長

板

伍

背

小

在

石

初

石

小

背

小

海のほとりの中川の火くたき  
つたききくたきくたきくたき  
今更の三つくたきくたき  
大一死火くたきくたき  
くたきくたきくたきくたき  
くたきくたきくたきくたき  
くたきくたきくたきくたき  
くたきくたきくたきくたき  
くたきくたきくたきくたき

糸子  
面仏  
本後  
風止  
松浦  
書不  
事子  
小也  
云松

海月の糸子くたきくたき  
くたきくたきくたきくたき  
くたきくたきくたきくたき  
くたきくたきくたきくたき  
くたきくたきくたきくたき  
くたきくたきくたきくたき  
くたきくたきくたきくたき  
くたきくたきくたきくたき  
くたきくたきくたきくたき  
くたきくたきくたきくたき

文子  
本後  
雲松  
事子  
車子  
大子  
百子  
治子  
松子



車道  
 精石  
 今  
 岳地  
 阿耨  
 芥丈  
 荒う  
 追糸  
 糸又

小庭  
 小庭  
 玉原  
 春松  
 鹿湖  
 之下  
 岳地  
 陰石  
 石橋



門柳  
 素白  
 栞好  
 全  
 春松  
 岳地  
 石介  
 全  
 竹柳  
 新神と書と長らて式を撰

春去  
 芳蝶  
 之下  
 狸多  
 全  
 西甚  
 處洞  
 栞存  
 昔紅



口持ひ共事あゆみ一糸 男 全  
 かくして思ふこもふらふらして色  
 ちりつゝおむかへばやの勝てすお上  
 けくかしく中一くこれと  
 人多ねる御成へは以新けぬかり  
 口大つゝあはれとみり一もさや  
 小豆の公へはへんあたまをさるつ  
 株のちとんをて和若へ地をま  
 おむとこ知もく一如旅へつら

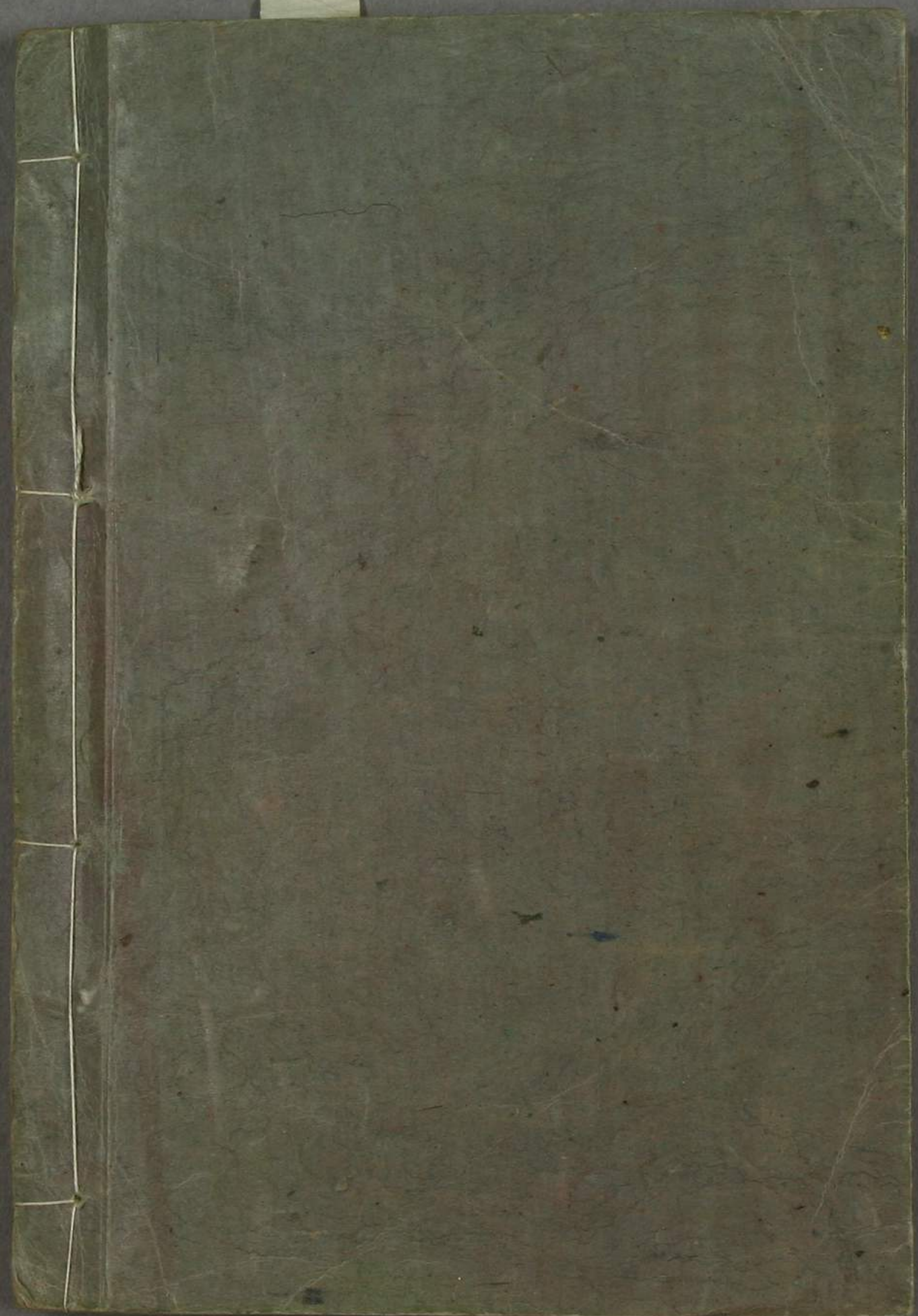
全 芳 車 概 牙 三 一 一 一 一

ちりやうとらう一くあはれとみり  
 三月の月をてとらふとらたはまの  
 月の精をてとらうとらあはれ  
 あはれとらうとらあはれ

一 一 一 一 一 一 一 一

己二月廿四日 春月 春月 春月 春月

神助 早稲 養秀



一  
五